

パブリック・サービス研究分科会

講義年月日 2009年5月11日(月) 午後2時30分～3時15分

講演者 明治学院大学図書館資料管理課コンテンツ係 椎名ちか子氏

テーマ 「米国の大学図書館における Peer Library Tutor(PLT)の実際」

#### 講義内容

2007年5月上旬から約4週間に渡る椎名氏の海外研修報告として、研修先のオハイオ州立大学で実施されている Peer Library Tutor(PLT)についての説明があった。

#### 1. イントロダクション

##### ・オハイオ州立大学の概要

オハイオ州(米国北東部)の州都コロンバスにある学生数約 61,000 人、教職員数約 19,000 人(2007年当時)を有する米国有数の総合大学

##### ・オハイオ州立大学図書館概要

Thomson Library(メインライブラリー)のほか計 37 館から構成

図書館員-その構成は日本とは異なる

プロフェッショナルスタッフ：⇒専門職のライブラリアンで他課への人事異動はない。約半数はファカルティ(教員と同じ地位を持つ)。約 130 名

サポートスタッフ：他課への人事異動はある 約 160 名

スチューデントアシスタント(SA)：学生・院生(この SA の一部が PLT)

#### 2. PLT プログラムについて

##### ・プログラムの誕生の背景

インターネットの普及に伴う学生の図書館離れ：蔵書や契約 DB から得られる情報の存在を教えたい

ライブラリアンへはなかなか質問にこないが、学生同士では教えあっている光景を多く目にする ⇒ 学生同士の方が聞きやすい！！

図書館が「Tutor」となる学生を教育して、Tutor である学生が、利用者の学生に対してレファレンスのサポートをできるように育成するプログラムとしてスタート

##### ・プログラムの特徴

単なる学生アルバイトとしてではなくチームメンバーとして学生を採用し、PLT 学生の学習支援、(生涯にわたって自分が必要とする情報を入手できるように技能や知識を習得できるように育てていく) こと等を目的としている点が特徴

##### ・PLT プログラム担当者とその役割-館員全員が新人研修担当者としてプログラムに参加する-

ファカルティリーダー：募集・採用、研修プログラム作成支援、新人研修の展開とコーディネートをはじめ、PLT が業務を円滑に遂行できるよう総括的な責任を負う

スタッフマネージャー：PLT 採用と勤務スケジュール作成や日々の PLT 学生管理

図書館員：OJT 教育、PLT 学生のサポート

##### ・PLT へのトレーニング

Introductory Training: 月 4 時間程度の勤務。”Carmen” と呼ばれる e-learning システムにより提供される。評価は Librarian に対して、トレーニングで習得した内容をデモンストレーションすることで、理解度を判定してもらう。不合格時は再トレーニング

On the Job Training : いわゆる OJT

**Refreshers** : 次の段階への移行を目的とし、導入トレーニングで学んだ内容の復習と発展

**Enrichment : Introductory Training** で学んだ項目について知識を深め、さらにスキルアップすることを目的とする。

**Mentoring** : PLT を受入れた部署の全員が PLT の教育担当者であることが求められる⇒PLT が図書館員と触れあうことで多くのメリットが生じることが期待される

- PLT プログラムを支える図書館環境

**Carmen** : オハイオ州立大学のラーニングマネジメントシステム

**OhioLink** : オハイオ州内のコンソーシアム。蔵書の相互利用はもちろん、データベースの共同契約、バーチャルレファレンスの実施等、充実したサービスを提供している。

**サブジェクトライブラリアン** : 主題に関する専門知識を有するライブラリアン

- PLT の現状

PLT => PLA (Peer Library Assistants)

PLT プログラム => SAT (Student Assistant Training)

#### 受講後の印象

PLT は単なる学生バイトの活用ではなく、「図書館の目線で行う情報リテラシー教育」の提供プログラムのように感じられました。

PLT プログラムに参加している学生も、単なるバイト代目的ではなくこのプログラムを通じて情報検索能力を高め、同じ学生への説明を通じてコミュニケーション能力を高めつつ、それを楽しんでいるような印象を受けました。

以上